

会員の広場



家庭菜園奮戦の記Ⅱ

増森 均（東京）

練馬区に住んで20数年が経ち、区の抽選で2年間借りられる区民農園で野菜づくりに励んできたが、抽選に外れて区民農園を利用できなかつた時に、農家が主催する体験農園に参加することにした。

練馬区の体験農園は沢山あるが、全区画10坪で農家が指定した野菜を年間約50種類

ほど栽培する。しかし、運営は主催農家の考えによって違う。無農薬で指導する体験農園もあるし、私が参加した近くの体験農園は、作目毎に農薬を使用した指導をしている。参加者の中には農薬を使いたくないという人もいたので、農薬をどの程度使うかは個人の判断で強制されないといい。それまで区民農園では漠然と無農薬で野菜を作ろうとしてきたが、どうしても病害虫の被害は免れず、もつとうまく作れないものかと悩んでいた。体験農園に参加して、農薬の効果的な使い方体系的に学べたのは大きな収穫だった。

体験農園に参加してまず驚いたのは、土壌消毒から野菜につく病害虫の防除を生育段階に合わせて散布する農薬を提供し、毎回講習会で農薬の特性を解説してくれることだ。散

布する殺虫剤は、同じ剤を使うと害虫に抵抗性ができて効果がなくなるので、毒性の弱い剤から始めて強い剤に替えて防除する。殺菌剤は初めは予防剤で、病気が出たら治療剤等、きめも細かい。農薬を指導どおりに使用すれば、確かにプロ農家のように立派な野菜ができるのである。

農薬は農薬取締法による登録認可されたもので、適用作物、適用病害虫や散布方法が必ず表示されている。特に、最近の農薬は選択性が高くまた分解も早いと言われている。選択性が高いというのは適用害虫には強い毒性があるが、哺乳動物には毒性がない等、人間には安全性が高いということ。分解が早いというのは農薬の残留期間が短く収穫直前まで使用できるということ。農薬はあまり使いた

くないと思ってきたが、使用方法をきちんと守れば安全性も高いと理解できた。一方で、散布回数も適用作物毎に決められているので、同じ農薬を何度も使うことができない。プロ農家でなければ多種類の農薬を駆使して病害虫を適時に防除するのはかなり難しいと納得した。

現在、体験農園と区民農園二股かけた野菜作りが日課になっている。やはり区民農園で自由に野菜を作る楽しみは何より代え難い。春に孫たちとイチゴ狩りができるほどうまく実った。小玉スイカは雌花が開く朝早く受粉作業して10個も結実したが、雨が多く収穫直前で実割れしてしまった。来年は大玉のスイカを作って「じじすごい」と孫の驚く顔を見てみたいと思う。（8月記）